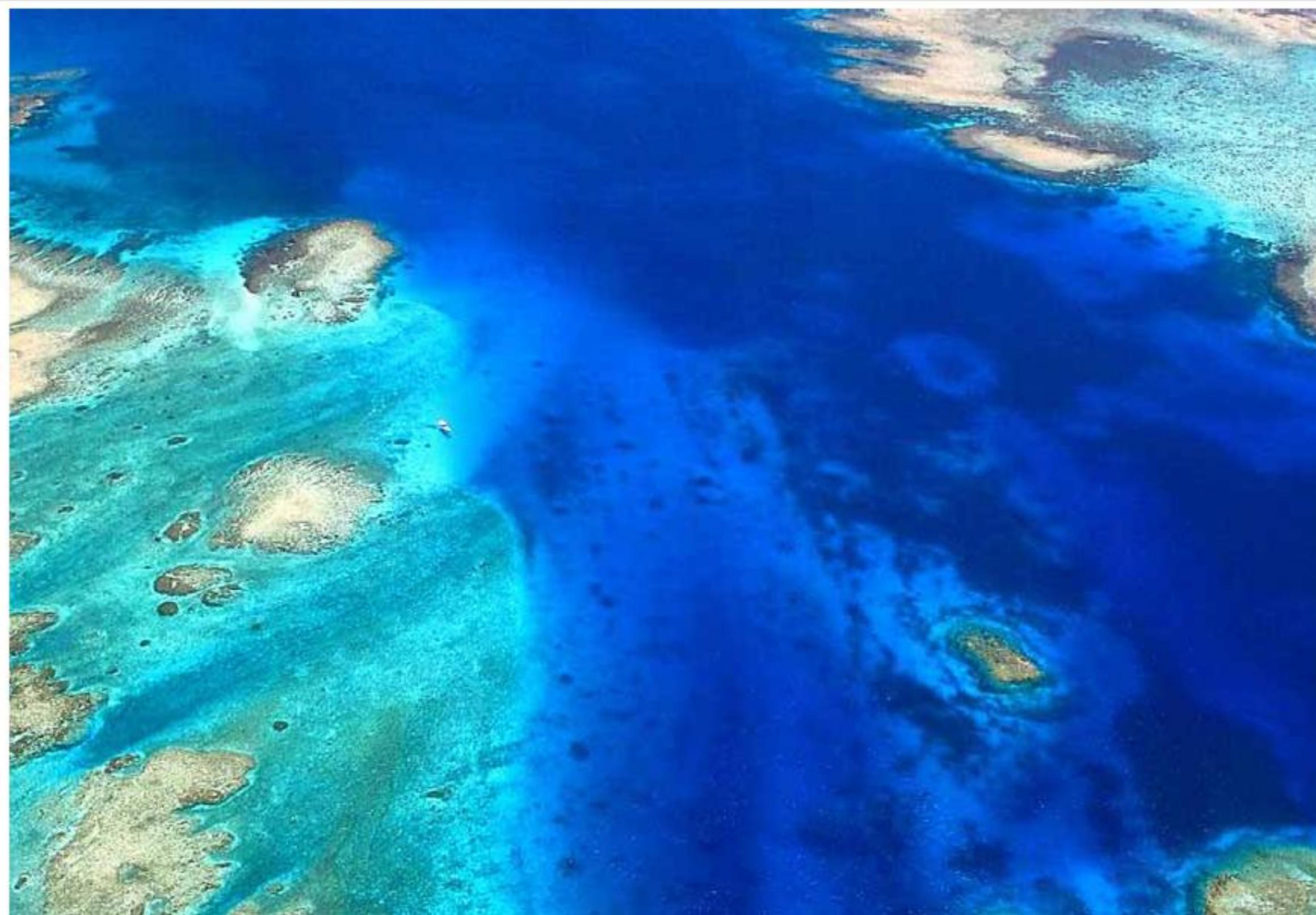


サンゴ礁

沖縄・宮古島沖の八重干瀬(やびじ)では、澄み切った青い海にサンゴが群生している
=本社機「あすか」から、小林裕幸撮影



沖縄

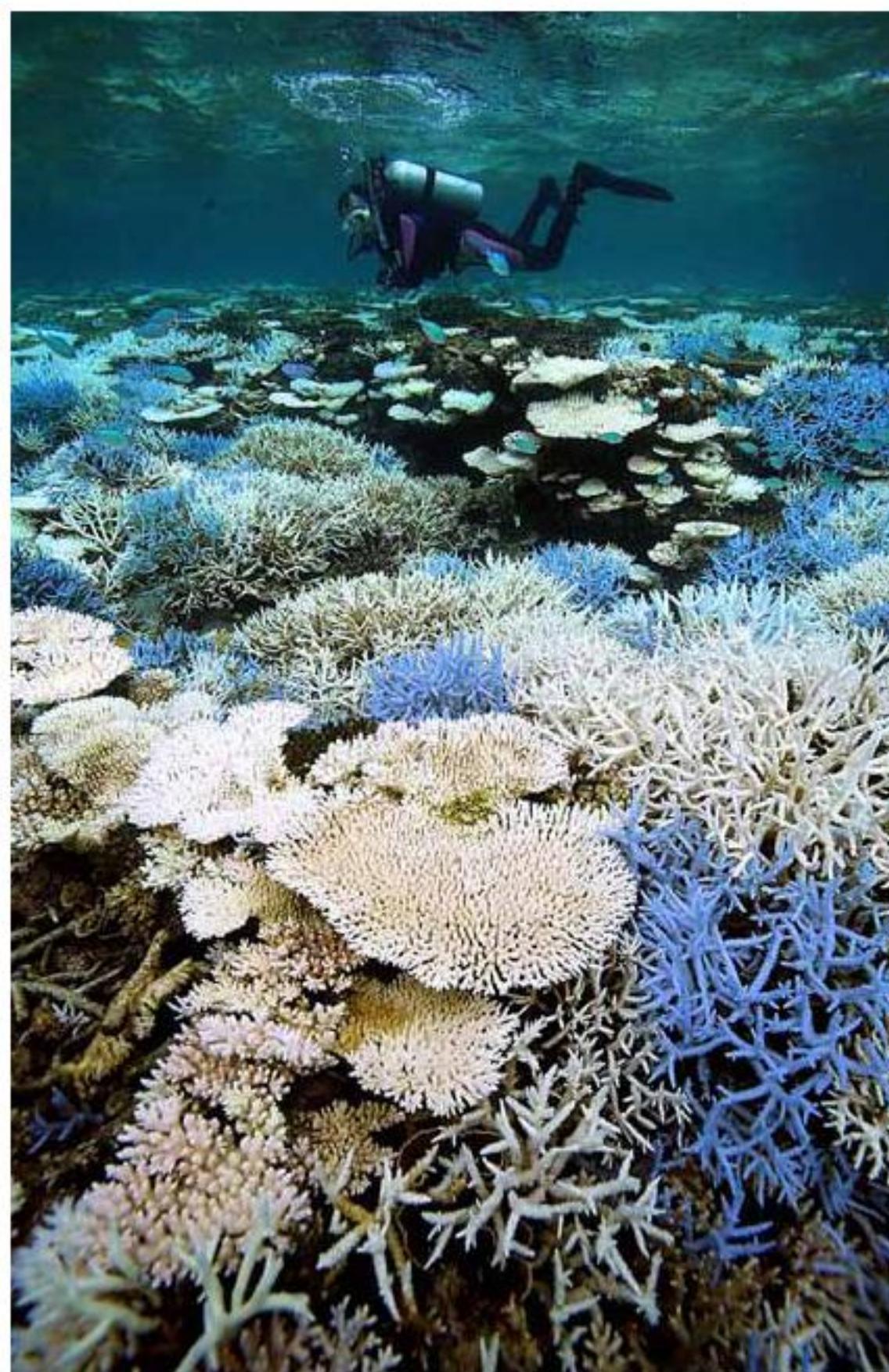


「地球が破局を迎えるかもしれない」と思うのは、あの色とりどりの美しいサンゴを見たせいた。

沖縄が本土復帰してまだ間もない70年代後半、石垣島や西表島の海を潜った。この世に存在するすべての色を一度に見た気がした。元気いっぱいなサンゴが育む豊かな生態系が生んだ、奇跡の光景だったと思う。

だがそれは、「占領」という住民の犠牲の上に立った偶然の産物だったのかもしれない。

その後、開発が進み、サンゴを食べるオニヒトデも大量発生した。海水温の上昇で白化現象



沖縄・石垣島のサンゴは、海水温の上昇で広範囲に白化していた
=恒成利幸撮影

白の侵略

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は昨年、「私たちが本気で温暖化対策に取り組めば、まだ深刻な被害から逃れられる」というメッセージを発した。だが、あの「色とりどりのサンゴ」を再び目にすることは、そのメッセージを信じきれないだろう。

（編集委員・石井徹）